

(公表用)

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成25年度採択)

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
25-2	物流の効率化と環境負荷の低減の両立を目指した道路政策についての研究開発	京都大学大学院 教授 谷口 栄一	C
<p>&lt;研究の概要&gt; ※成果報告レポートより引用</p> <p>物流の効率化と環境負荷の低減の両立を目指した道路政策を立案することを実現するため、貨物車交通マネジメントの方法論を確立することを研究目的として、都市物流施策を評価するためのタイムウィンドウ付き配車配送計画モデル及びマルチエージェントモデルに関する研究開発。</p> <p>&lt;事後評価結果&gt;</p> <p>環境負荷の低減に大きな影響がある貨物車を対象に、その行動をモデル化して分析しているが、本研究で開発した配車配送計画モデル及びマルチエージェントモデルの有用性や、配送実態とモデルによる最適経路の違いが生じる原因を具体的に示せておらず、成果の有効範囲、一般性の検証が必要である。研究全体として達成された成果に疑問があり、研究成果を道路政策の質の向上に活用することは難しいと考えられることから、研究成果は一部に留まったと評価する。</p> <p>&lt;参考意見&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 物流政策におけるマルチエージェントモデルの活用に向けて、モデルの構造やパラメータ、最適配車配送モデルの土地利用パラメータ等の設定方法についての具体的な検討が望まれる。</li><li>2. 本研究成果の有用性を明らかにするため、成果の活用シーンとして提案された貨物車交通マネジメント関係者による公民連携協議会における適用について、具体的な方法論や効果に関する今後のさらなる検討が期待される。</li><li>3. 物流の利害関係者を巻き込んだマルチエージェントシミュレーションモデルを構築して、貨物車交通のマネジメントを行えるようにしたことは評価に値する。今後、利害関係者のタイムリーな意思決定のために動的シミュレーションシステムを構築することが期待される。</li></ol>			

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第29回新道路技術会議において審議したものである。